

朝日大学病院医療事故の公表について（包括的公表）

朝日大学病院の理念の一つに「安全で質の高い医療の提供」があります。当院では理念に基づき医療事故防止のため様々な取組を行っていますが、この様々な取組に加えて院内で発生した医療事故を自発的に公表することが「社会」から求められています。そこで当院では、院内・院外への情報提供や医療の透明性・信頼性を資する場として定めた医療事故公表基準に基づき 2022 年度に発生した当院の医療事故をここに公表します。

2023 年 6 月

朝日大学病院

病院長 日下 義章

期 間 ： 2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日

【医療過誤による患者影響レベル 3b 以上の公表件数と概要】

公表件数 ： 4 件

分類・レベル	薬物・患者影響レベル 3b																
事例	<p>退院患者に対してメソトレキサートが処方されたため、病棟担当薬剤師が服用方法（週 1 回）について本人に説明を行った。退院後、患者本人の体調が悪化したため、患者家族が服薬管理することとなった。患者家族は「薬袋」ではなく「お薬説明書」を見て服薬準備したため、週 1 回のところ誤って連日セットしてしまった。そのため、週 1 回 8 mg 服用のところ 6 日間連続 8 mg 服用してしまい再入院となった。骨髄抑制による易感染状態、易出血状態に注意しながら治療継続し経過観察していたが、改善が見られなかったため転院となった。</p>																
再発防止策	<p>患者本人は以前から継続服用しており、退院時に薬剤師が説明したこともあり服用方法を十分に理解していた。しかし、退院後患者家族が管理することとなり、「週 1 回」と記載されている薬袋ではなく、お薬説明書を見てセットしたことが内服間違いの原因と考えられる。対策として、お薬説明書にも飲み方が明確に理解できるよう①薬品の一部として（週 1～2 回内服）を追加、②薬の作用欄に「週 1～2 回服用」を記載することとした。</p> <div data-bbox="507 1682 1370 2076" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">おくすり説明書 2023年5月18日 1 / 1 0326</p> <p>患者ID: 9999950008 テストカクン00 テスト確認 008 様 診療科: 内科 医師:</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 33%;">① おくすり</td> <td style="width: 33%;">使い方</td> <td style="width: 33%;">薬の作用</td> </tr> <tr> <td>1. メソトレキサートカプセル2mg(週1～2回)</td> <td> <table border="1" style="font-size: small;"> <tr><td>起床</td><td>朝</td><td>昼</td><td>夕</td><td>眼前</td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p style="text-align: center;">◆1日1回朝食後</p> </td> <td> 免疫に関与する物質の働きを抑えて、関節の炎症を和らげたり、 症状を改善します。(決められた曜日に(週1～2回)服用) ② </td> </tr> </table> <p>【副作用】 手足が冷たい、息がしにくい、発熱、のどが痛い、他に炎症が起きる、体がだるい、白目や皮膚が黄色い、尿が出にくい、せき、赤いはん点、下痢、胃周辺激痛、背中や腰が痛い、頭痛、ふらつき、マヒ、発疹、かゆみ等の症状が現れたら、医師・薬剤師に相談して下さい。</p> <p>【患者さんへ】必ず薬袋の指示通りお使い下さい。副作用は一部のかたにしか起こりません。また全ての副作用を記載しているわけではありません。普段と違った症状が現れたら早目にご相談下さい。</p> </div>	① おくすり	使い方	薬の作用	1. メソトレキサートカプセル2mg(週1～2回)	<table border="1" style="font-size: small;"> <tr><td>起床</td><td>朝</td><td>昼</td><td>夕</td><td>眼前</td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p style="text-align: center;">◆1日1回朝食後</p>	起床	朝	昼	夕	眼前		1				免疫に関与する物質の働きを抑えて、関節の炎症を和らげたり、 症状を改善します。(決められた曜日に(週1～2回)服用) ②
① おくすり	使い方	薬の作用															
1. メソトレキサートカプセル2mg(週1～2回)	<table border="1" style="font-size: small;"> <tr><td>起床</td><td>朝</td><td>昼</td><td>夕</td><td>眼前</td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p style="text-align: center;">◆1日1回朝食後</p>	起床	朝	昼	夕	眼前		1				免疫に関与する物質の働きを抑えて、関節の炎症を和らげたり、 症状を改善します。(決められた曜日に(週1～2回)服用) ②					
起床	朝	昼	夕	眼前													
	1																

分類・レベル	薬物・患者影響レベル 3b
事例	<p>糖尿病があり持効型インスリンを使用している 60 代男性。骨折により緊急入院し週明けに内分泌科を受診する予定とした。主科から時間血糖測定とインスリンの指示があり、消灯前に看護師 2 名で指示を確認し血糖測定とインスリン注射を実施した。注射後再度看護師 2 名で確認すると、インスリン注射は朝だけ実施する指示であったことが発覚した。</p> <p>すぐに医師へ報告し、24 時に血糖測定を実施、低血糖症状は 24 時、3 時、5 時、7 時に出現したためその都度 50%ブドウ糖を注射し、その後血糖は安定した。</p>
再発防止策	<p>インスリンの取扱いを間違えることは重大な影響を及ぼす危険が高くなるため、医師の指示を正しく理解した上で実施する必要がある。また看護師 2 名での確認方法が曖昧であり、当院の確認ルールに則った方法を実施するよう再度周知した。</p>
分類・レベル	透析・患者影響レベル 3b
事例	<p>夜間透析の患者さんで、17 時に透析を開始した。その後 17 時 27 分に、受け持ちスタッフが装置設定チェックのため透析装置のタッチパネル画面を操作した。除水速度チェックのため除水速度設定画面で確認していた。確認が終わり、除水速度設定画面を閉じようとしたところ、手に持っていた透析装置認証カードが画面に触れ、除水速度が 0.55L/h から 1.55L/h に変更されてしまった。誤操作で除水速度が変更されてしまったことに気付かず設定画面を閉じ、チェックを終了した。</p> <p>18 時 37 分に静脈圧下限警報が発報。透析機器、バイタルの確認のため訪れると、患者さんは意識消失していた。すぐに透析停止、ショック体位、緊急補液、医師報告を行い 18 時 38 分に意識回復した。このとき、除水速度が誤操作にて変更されているのに気付いた。意識回復直後は下肢牽引痛があったが、温罨法等で改善した。その後バイタルに変化なく透析を終了した。</p>
再発防止策	<p>除水速度変更は、数字を変更した後確定ボタンはなく、すぐに反映されてしまう。</p> <p>タッチパネルを操作するときは、手に何も持たず操作するよう手順書に追加する。</p>

分類・レベル	処置・患者影響レベル 3b
事例	<p>患者は 70 代男性。経管栄養用の胃ろうチューブを入れていた。</p> <p>患者は認知機能の低下によりチューブを抜去する危険があった。その予防のためにタオルを巻いてチューブの部分が見えないように保護していたが、胃ろう造設から 17 日後、経管栄養中に胃ろうチューブを自己抜去した。すぐに医師がろう孔内にネラトンカテーテルを挿入して閉塞を防ぎ、翌日チューブの再挿入を行った。</p>
再発防止策	<p>胃ろうチューブを挿入している患者に対しては、自己抜去予防のために毎日観察を行っている。また、身体拘束の 3 原則（切迫性、非代替性、一時性）に沿って、抑制する時間が少なく、できるだけ患者の負担とならないように、多職種を交えた医療チームで抑制の解除に向けて検討しているが、今回自己抜去が生じてしまった。</p> <p>今後も観察を強化して、患者の行動を考えながら、多職種を交えた医療チームで抑制の解除に向けた検討を続け、チューブトラブルの発生予防に努めていく。</p>